



Vol.34 2016年 春号

## 平成28年度の主な事業予定

- 6/1(水)【近畿女性会連合会】  
第28回総会・橋本大会
- 6/24(金)●平成28年度通常総会&講演会
- 7月ごろ【大阪府女性会連合会】理事会
- 9月~11月【大阪府女性会連合会】  
研修・交流会
- 9/28(水) 29(木)【全国女性会連合会】  
徳島総会&エキスカージョン
- 10月●経営事例発表会
- 11月~12月●視察研修会
- 平成29年1月●新年互礼会
- 2月●経営事例発表会
- 2月【近畿女性会連合会】  
理事会&会長会議
- 2月【大阪府女性会連合会】総会&講演会

# 華やかに力強く新年互礼会

平成28年1月18日 帝国ホテル「八重の間」(出席者133名)



来賓に、ダボス会議出席の出発時間を遅らせて駆けつけていただいた尾崎裕会頭、小嶋淳司・鳥井信吾の両副会頭、宮城勉専務理事、児玉達樹常務理事(事務局長兼任)を迎えて、平成28年の新年互礼会は1月18日正午から開会しました。

池上淳子会長から「女性企業家の頑張りが、今後の日本の産業発展の礎になる。頑張って日本経済を繁栄させていきましょう」とエールをいただき、尾崎公子名誉会長が挨拶。乾杯の発声をお願いした尾崎会頭からは、尾崎名誉会長をはじめとする女性会のパワーを褒めていただきました。おいしい食事、楽しい会話、そして水田厚子氏のピアノ演奏で、会員の金城未依氏が歌うオペラ歌曲を堪能。素晴らしい歌声で、会を華やかに彩っていただきました。女性会の力強さをますます実感できる新年互礼会でした。

(八木産業㈱ 代表取締役会長 八木洋子)

## 春爛漫の淡路島で「懇親会・講演会」

平成28年4月6日(出席者34名)

春の早朝、女性会一行は穏やかな日和のもと、大阪駅からバスで一路淡路島へ。途中、車窓からの満開の桜に目を奪われながら、ホテルニューアワジに到着。オーナーの木下紘一会長ご夫妻、先に到着されていた尾崎公子名誉会長の熱烈歓迎を受け、早速に淡路の山海の美味に溢れた心づくしの会席料理を堪能しました。

食事のあと、木下会長の講演「ホテルと共に」が始まり、穏やかでゆるぎなき信念のこもった語り口のお話に引き込まれました。50年前、約50室だった旅館を、神戸ベイシヤトンなどを含む10施設(売上131億円)にまで育て上げられた木下会長。NHKのドラマから「ファーストペンギン」を引用され、「群れの中から一番先に飛び込む勇気を持ち、リスクにひるまず挑戦する」強い



「ホテルニューアワジ」  
オーナー木下紘一会長(右)  
恵子副社長ご夫妻

リーダー像を实践される一方、今なお、週1回の客室係とのミーティングを欠かさない柔軟な経営者です。また、どんな時も落ち着いて夫の決断を信じ、支え続けてこられた恵子副社長のお話も伺い、女性経営者のお姿に感動しました。

その後、日本誕生の原点、伊弉諾(イザナギ)神社を語り部と共に参拝し、古代史の奥深さと神話の不思議を学び、日本人として何よりの心の栄養をいただいて、美しい淡路島をあとにしました。

(ゆり工房 代表 中村百合恵)

## ドラマで話題の広岡浅子さんの生涯と 五代友厚氏の業績を改めて胸に刻んだ

総会の冒頭で池上淳子会長が、傘下の女性会が14になったことを報告されました。尾崎公子名誉会長は、苦勞が自身の磨き砂になったことを話され、「すべては心ひとつ。経営に携わる女性会のみんなは、喜びも苦しみもわかちあえる心の家族になりましょう」と呼び掛けられました。恩地未通子副会長（北大阪商工会議所女性会会長）の乾杯の音頭で吉兆のお弁当をいただき、お腹も心も温まり、講演会がスタート。

テーマは、「大同生命の源流 加島屋と広岡浅子」です。同社顧問（大商副会頭）の倉持治夫氏は「生命保険会社は、寿命の長短、人口の増減に影響を受けやすい。少子化が進み、生涯未婚率が上昇した今は、一家の大黒柱が亡くなったあとで遺された家族の生活を守る保険よりも、単身者が余命ある間に医療を受けられる保険が求められている」と話されました。

続いて大阪人事課長の谷村清美氏が、NHK 連続テレビ小説「あさが来た」のヒロインのモデルとなった広岡浅子さんの生涯を、プロジェクターを使って説明。炭鉱・銀行・保険そして日本女子大学創立に尽力するなど大阪経済の復興・発展と女子教育に心血を注いだ彼女の「どんなに暗い夜でも信じて前へまっすぐ進んで行けば明るい朝が来る」「実現するまで決してあきらめない九転十起の精神」「率先垂範・現場主義の先見性と行動力」に感銘を受けました。

印象深かったのは、ドラマに本名そのまま登場した五代友厚氏のこと。50歳という短い生涯に、日本の開国に多大な影響を与え、イギリスやフランスなどで見聞を深め、大阪の経済発展に貢献して下さった。日本人（特に大阪人）が忘れてはならない恩人だと思いました。有意義な時間を過ごし、夢をいただいた私たちは、女性の品格をもって先人に感謝しつつ、家庭・仕事・社会のためになれるよう過ごしたいものです。

（小山鋼材㈱ 監査役 小山富代）



3月10日（木）リーガロイヤルホテル大阪「光琳の間」（出席者271名）

## 文明開化の重鎮たちが集った老舗料亭を創業の地・北浜で守る



㈱花外楼  
代表取締役  
徳光 正子様

1830年（天保元年）創業の花外楼の歴史を、徳光正子様が語りました。明治期には、台湾出兵をめぐり下野した木戸孝允、征韓論をめぐり既に下野していた板垣退助と、政府トップにいた大久保利通の中を取り持つべく、井上馨、伊藤博文らの仲介により実現した大阪会議の舞台となったことでも有名です。大阪会議の実現に、ちょうどNHKの連続ドラマでブレイクし、

関西女性の熱視線を集めることになった五代友厚も関わっていたというエピソードもあり、徳光様が語る花外楼の歴史に、会場は興味津々でした。

花外楼は、明治に最初の建て替え、昭和に2回目の建て替えをし、平成27年4月、新しい建物で北浜の地で営業を再開しました。五代目女将として料亭の経営に携わり、現在の建物への建て替えを決意されたのが徳光様でした。

大阪会議の開催に象徴される人の出会いの舞台となる場、その経営に携わることの自負と使命感をもつ

て五代目女将を引き継いだものの、料亭の厳しい時代に「自分だけの店なら建て替えはしなかった。引き継いだのれんの重さ、北浜にあってこそその花外楼との思いが、建て替えを悩む自分の背中を押した」とのお話に、深い重みを感じました。

東日本大震災という予測外の出来事の影響を受け、当初の竣工予定が大幅に遅れて延びる休業期間。ようやく北浜の地で再開した花外楼に立った時、徳光様が感じられた光と風はどれほどのものだったかと思えます。

うらやましいほどの由緒正しい歴史、世間の期待や憧れを集めて、とても華やかに思える料亭の経営。その裏には、それを受けて立つ方々の誇り、先代との心のつながり、そしてサービスの有り様についての強い思いがあることを勉強させていただくことができました。

（アーカス総合法律事務所 弁護士 末永京子）

## 経営事例発表会

平成 28 年 2 月 2 日、大阪商工会議所で 2 つの経営事例発表会がありました。

## 「一つひとつを丁寧に」手作業でお菓子作りを続けるケーキ屋さん



㈱堂島スイーツ  
代表取締役  
永井 甫智子様

永井甫智子様語った演題は「女子のあこがれ、ケーキ屋さんになって」でした。

平成2年（1990年）からご実家が経営していたフレンチレストランの経営を任せられ経営者の道へ進むことになりました。当時レストランでは、フレンチスタイルのデザートが提供され人気でした。この点に着目し、永井さんは自慢のデザートを家庭でも楽しめるよう、レストランの横に洋菓子店をオープンしました。これが堂島スイーツの始まりでした。

レストランでは出来たてをすぐにお客様に提供できますが、テイクアウトとなると、持ち帰りしやすい形態か、衛生面での問題はないかなど、クリアしなければならない障壁がいくつもありました。試行錯誤を繰り返すうち、レストランで人気があったクリーム・ブリュレを日本人好みのあっさりした味に改良した

新しいタイプのプリンが完成。開業の地・堂島に敬意を込め「堂島プリン」と名づけられました。

その後まもなくもう一つの看板商品「魔法のロールケーキ」が開発され、会社は順調に業績を伸ばしていきました。共同経営者を招き、年商6億円になるまで急成長を遂げましたが、急激な事業の拡大は却って会社を疲弊させると感じた永井さんは思い切って事業を縮小し、原点に立ち戻ることになりました。

堂島スイーツでは機械による大量生産ではなく、パティシエが丁寧に一つひとつ手作業でお菓子を作っています。「私たちはメーカーではなく、ケーキ屋さんである」という言葉に、永井さんの実直なお人柄が表れていると思いました。

（弁護士法人本町国際総合法律事務所 弁護士 阪口英子）

# 11月の研修会でも広岡浅子さん お人柄をしのび勇気をいただく

研修会および昼食会

平成27年11月16日 ラフェットひらまつ

11月の研修会でも、明治から大正にかけての実業家・教育者であり、大同生命保険創業に深く関わりのある広岡浅子氏のお話を、同社人事課長の谷村清美様にお伺いしました。

京都の豪商に生まれ、大阪の両替商「加島屋」に嫁ぎ、家業を守るために壮絶な人生を歩まれた。徳川幕府から明治政府に変わる頃は、私たちには想像もできない混沌とした激動の時代でしたでしょう。商売の成り立ちを学び、炭鉱事業への参入を決めた時、危険を感じ、ピストルを胸に忍ばせていたという逸話は、尋常でない状況を物語ります。両替商「加島屋」から加島銀行となり、女子行員を雇われた。掛け金を払って生命と傷病の損失の保障を受ける保険の重要性に気づき、今日まで続く大同生命保険会社を設立された……。

何度転んでも立ち上がる浅子のことを、人は「だるまはん」と呼んだそうです。自らもそのように生きたいと、座右の銘は「九転十起」。そして、女性の自立のための大学設立にも尽力された。当会の尾崎公子名誉会長が、その日本女子大学の41回生だったことも、広岡浅子氏の意味が今に生きている証明のように思えます。



池上淳子会長



中之島フェスティバルタワー最上階の「ラフェットひらまつ」で行われた研修会・昼食会

「どんな人にも謙虚であれ」との言葉からは、自分に厳しい方だったであろうと思われます。社会への貢献を常に意識し、女性の社会進出への道も築かれた、信念のある方でもあったと思います。

関連書籍も多く、ドラマの主人公にもなった立派な広岡浅子氏の足元にも及びませんが、お話を聞いて感激すると共に、心して邁進していきたいと思いました。

(株)ドクターピュアラボ 代表取締役 香山ひとみ)

## 広報委員長としてのお礼

2年間広報委員長として務めさせて頂き、委員会の皆さまには大変お世話になり感謝いたします。特に初めての委員長ということもあり手探りのなか、皆さまには無理をお願いしたこともありました。

委員会を運営させていただくにあたり、2つの活動方針を立てました。一つは、広報活動を知っていただくこと、書く楽しみを感じることに。二つめは、魅力ある紙面づくりをめざす。ということです。

そのために、勉強会の開催では、文章の作り方や、紙面にふさわしい文章の扱いや、表現方法、紙面構成など多くのことを委員会で開催することができました。そしてそれらを通じて、会員の皆さまと交流できたことが一番の成果で、楽しかったと感じています。

(株)ディプロム 代表取締役 貴島清美)

## おまけの編集後記

大阪商工会議所女性会の皆様、はじめまして。アサヒ・ファミリー・ニュース社の大田季子(としこ)と申します。「大商女性会の小野幸親副会長が、広報編集について話してくれる人を探している」というお話を大阪朝日広告社からいただき、今回、広報委員の皆様とご縁ができて、NOW34号の編集を少しお手伝いさせていただきました。皆様さすがに頭の回転も良く、編集会議でも驚くべき集中力を発揮されていました。任期の初めに貴島清美広報委員長は「委員の皆様は『書くことは楽しい』と思っただきたい」と目標を掲げられたそうで、活気あふれる活動の様子から、皆様が「書くこと」を楽しんでおられる様子が伝わってきました。最後の編集会議の締めくくりに、小野副会長が話された「女性経営者はピンを知らなければならない」という言葉も深く心に残りました。女性会と皆様方の事業のますますの発展をお祈りいたします。このたびは本当に、ありがとうございました。